

2014年3月期 第3四半期 決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 経営企画室長

羽田野 彰士

2014年2月4日

2014年3月期第3四半期の決算概要を説明いたします。

第3四半期決算ハイライト

全社	<ul style="list-style-type: none"> ■ 営業利益は業績予想に対して、やや進捗遅れ ■ 四半期毎の営業利益率の改善は進む
心臓 血管	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内カテーテル事業は好調を維持 ■ 北米カテ事業は好調、欧州は若干鈍化 ■ ニューロ領域の新製品は順調に拡大 ■ 品質システム改善活動は最終段階へ
血液	<ul style="list-style-type: none"> ■ 厳しい市場の中で堅調な業績を維持
ホスピ タル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新製品の遅れなどが影響し、国内事業が減速



2014/2/4

©Terumo Corporation

2/26

はじめに、2014年3月期 第3四半期の決算ハイライトについてご説明します。

まず、全社業績ですが、為替の円安効果もあり増収・増益を達成しましたが、営業利益は業績予想に対してやや進捗が遅れています。四半期毎の動きでは営業利益率の改善が進みました。

事業毎では、心臓血管領域事業において、国内カテーテル事業がペリフェラルの戦略製品である末梢動脈疾患治療用ステント「ミサゴ」の好調もあり、上期に続き高い成長を維持しました。また、北米のカテーテル事業も対前年同期比11%伸長と好調でした。一方で欧州は物流システムのトラブルの影響を受け、若干ながら伸長が鈍化しました。ニューロ分野においては、パイプライン新製品を着実にローンチし売上を順調に拡大しています。なお、米国子会社(TCVS社)の品質システム改善投資は年度末完了に向けて最終段階に入っております。

次に血液システム事業ですが、欧米で輸血の使用量が減少している厳しい市場環境の中で、堅調な業績を維持しました。

ホスピタル事業では、新製品の立ち上げ遅れなどが影響し、ディスポ医療器や輸液ラインに売上に遅れが発生し、国内事業が減速しました。

決算概要：増収増益を継続

	13/3期 Q3累計	14/3期 Q3累計	増減率
売上高	2,957	3,453	+17%
粗利益	1,535 (51.9%)	1,787 (51.7%)	+16%
一般管理費	915 (31.0%)	1,080 (31.2%)	+18%
開発費	194 (6.5%)	224 (6.5%)	+16%
営業利益	426 (14.4%)	483 (14.0%)	+13%
(のれん等償却除く)	525 (17.8%)	604 (17.5%)	+15%
経常利益	405 (13.7%)	499 (14.5%)	+23%
純利益	247 (8.4%)	369 (10.7%)	+49%
EBITDA (営利十償却費)	662	775	+17%
期中平均レート	US\$ 80円 EUR 102円	99円 132円	



2014/2/4

©Terumo Corporation

3/26

決算概要について説明します。

昨年度と比較して進んできた円安ですが、第3四半期までの期中平均レートは1ドル 99円、1ユーロ 132円となりました。この円安の効果もあり、売上高は前期比17%増の3,453億円となりました。なお、この売上高には412億円の為替のプラス効果が含まれています。

粗利益率は、生産性が大きく寄与した前年同期と比較して、生産性悪化、価格の低下、米国デバイスタックス等の影響により、0.2ポイント低下しました。販管費は為替の影響もあり前期比18%の増加、開発費も前期比16%の増加となりました。この結果、営業利益は483億円、前期比13%増の2桁伸長となりました。この営業利益には104億円の為替のプラス効果が含まれています。

経常利益は、円安による為替差益で23%伸長の499億円、当期純利益は、法人税等の影響で前期比49%増の369億円となりました。

売上高と伸長率(Q3累計)

カテーテルは10%伸長、国内ホスピタルは減速

(億円)

事業 セグメント	日本	海外 計					合計
			欧州	米州	中国	アジア	
ホスピタル	956 (-0%)	283 (4%)	87 (-5%)	66 (-0%)	9 (-13%)	121 (15%)	1,239 (1%)
心臓血管	368 (6%)	1,171 (6%)	431 (5%)	477 (7%)	137 (13%)	127 (-1%)	1,539 (6%)
うちカテーテル	284 (9%)	872 (10%)	339 (9%)	305 (11%)	129 (13%)	98 (3%)	1,156 (10%)
血液 システム	97 (2%)	578 (4%)	185 (2%)	277 (4%)	27 (5%)	89 (11%)	675 (4%)
合計	1,421 (2%)	2,032 (5%)	702 (3%)	820 (5%)	173 (10%)	337 (8%)	3,453 (4%)

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く



2014/2/4

©Terumo Corporation

4/26

この表は事業セグメント、地域毎の売上と伸長率を示しています。カッコ内は為替影響、そして昨年2月に譲渡しました在宅酸素・在宅輸液事業の影響を除いた伸長率を示しています。

ホスピタル事業の国内ですが、基盤医療器や医薬品の輸液関連製品の減速によりゼロ伸長となりました。海外では、アジア・中南米で好調を維持しましたが、欧州や北米での低収益ビジネスの見直しを実施した影響もあり、ホスピタル事業全体で1%の低成長に留まりました。

心臓血管領域事業では、国内では中期経営計画の注力分野であるペリフェラル領域の末梢動脈疾患治療用ステント「ミサゴ」が順調に売上を伸ばしました。一方、海外においてもカテーテル事業が堅調に推移し、10%と2桁成長を維持しています。TRI手技の普及拡大に伴い、その関連製品は継続的な売上拡大を続けており、これらカテーテルと心臓外科(CV事業)を合わせた心臓血管領域事業の伸長は6%となりました。

血液システム事業は、欧州の財政難による血液センター投資を控える動きや米国のオバマケアにより加速した輸血適正使用化の動きによる需要減や価格引き下げのプレッシャーがある中、4%伸長と堅調な業績を維持しました。

販管費

一般管理費は売上伸長の範囲内にコントロール
 研究開発費は注力分野に継続投入

(億円)

	13/3期 * Q3累計	14/3期 Q3累計	増減	増減率
一般管理費計	1,057	1,080	+23	+2%
研究開発費	215	224	+9	+4%
販管費合計	1,272	1,304	+32	+3%

- * : 為替の影響を除いた換算値
- 米州(カテ・ニューロ)の販売力の強化
 - ニューロ新製品、血液システム(治療アフエレーシス・血液自動製剤システム)へ開発費を投下



2014/2/4

©Terumo Corporation

5/26

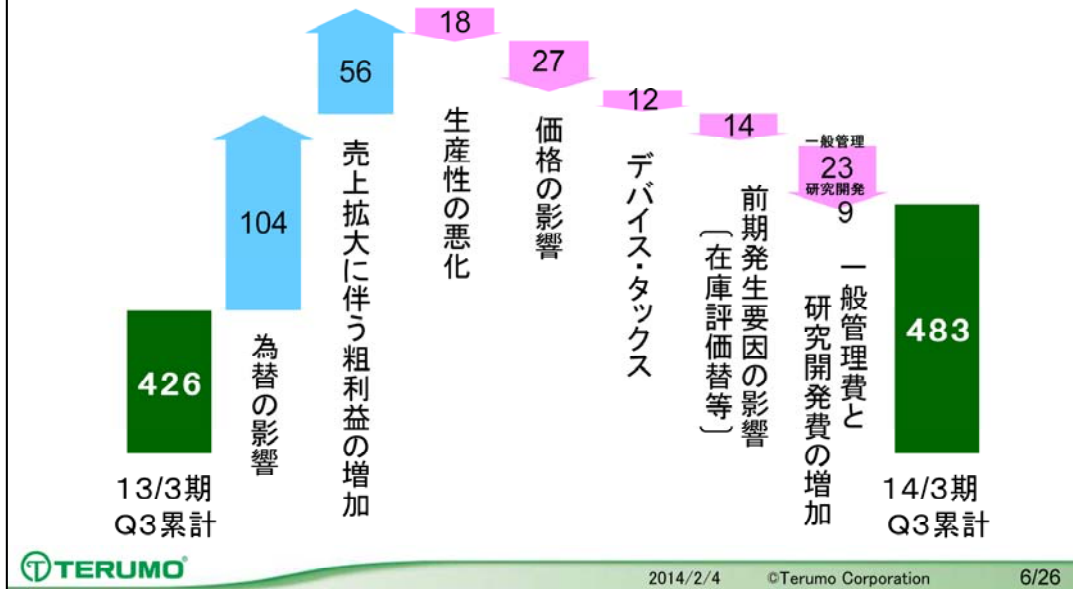
販管費の状況について説明します。

このスライドは為替の影響を除いた実績を表示しています。一般管理費の対前年同期比は2%増、研究開発費は4%増、合計で3%の伸長と、ほぼ為替の影響を除いた売上伸長率の範囲でコントロールしました。

営業利益増減分析

売上拡大・費用管理により着実に収益性を改善

(億円)



営業利益の増減分析です。

為替効果がプラス 104億円、売上増加による粗利益の増加のプラス効果が56億円ありましたが、新製品の立ち上げ段階でのコスト増や新たに導入した設備の償却費の増加などのマイナス効果も発生しました。価格低下の影響、米国のデバイス・タックスや前年度寄与した在庫の評価替え、販管費の増加等の要因を加えると、営業利益は57億円増加の483億円となりました。期末に向けて、売上拡大と売上伸長の範囲内での費用コントロールを引き続き実行していきます。

四半期の動き

収益率を着実に改善

(億円)

	FY12Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY13Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上高	1,039	1,065	1,111	1,149	1,192
粗利益	529 (50.9%)	522 (49.0%)	570 (51.3%)	601 (52.3%)	615 (51.6%)
販管費	385 (37.0%)	416 (39.1%)	437 (39.3%)	430 (37.4%)	437 (36.7%)
営業利益	144 (13.9%)	106 (9.9%)	133 (12.0%)	171 (14.9%)	178 (14.9%)

期中平均	US\$	81円	92円	99円	99円	100円
レート	EUR	105円	122円	129円	131円	137円

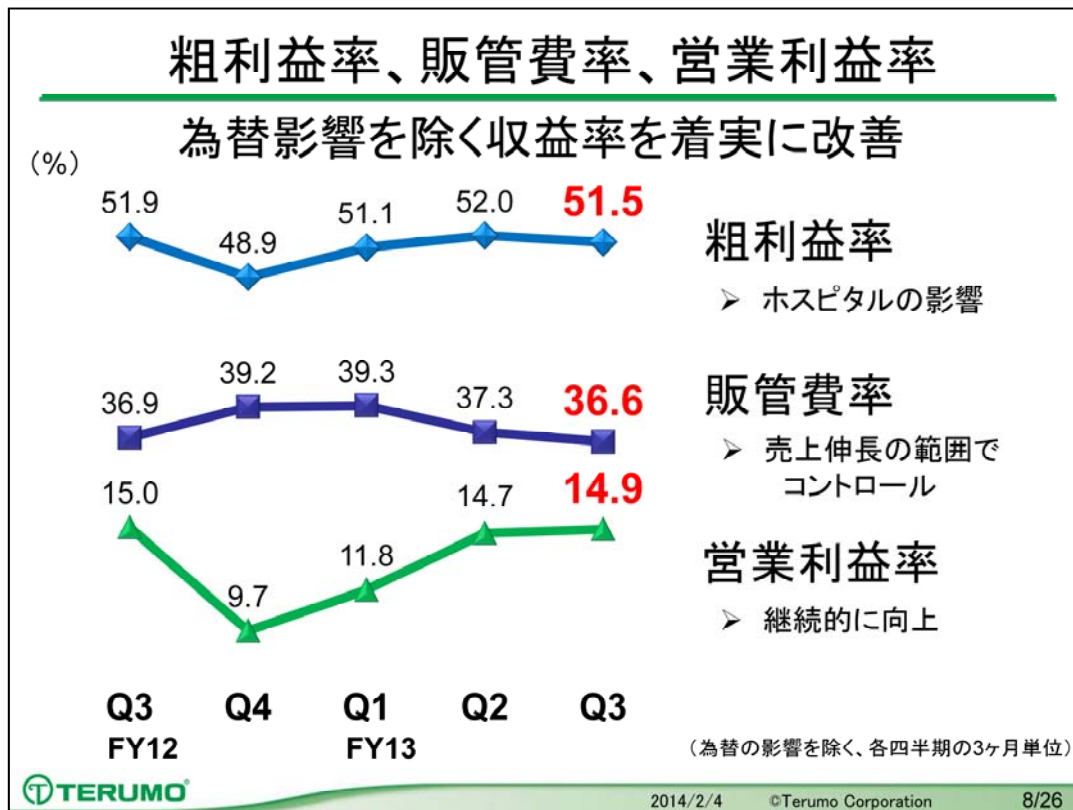


2014/2/4

©Terumo Corporation

7/26

過去1年間の四半期毎の収益の動きですが、営業利益は昨年度第4四半期を底に着実に改善してきております。



次に為替の影響を除いた対売上高の比率で利益改善状況を説明します。

粗利益率は第1四半期、第2四半期と着実に改善して来ましたが、第3四半期はホスピタル事業の国内売上減速の影響もあり0.5ポイント低下しました。しかしながら販管費を売上伸長の範囲でコントロールしたことにより、第3四半期の営業利益率は14.9%と改善しました。

業績予想の進捗状況

営業利益は売上拡大と費用管理により改善を見込む

(億円)

	業績予想	実績	対予想比
売上高	4,600	3,453	75%
営業利益	700 (15.2%)	483 (14.0%)	69%
経常利益	675 (14.7%)	499 (14.5%)	74%
純利益	420 (9.1%)	369 (10.7%)	88%



2014/2/4

©Terumo Corporation

9/26

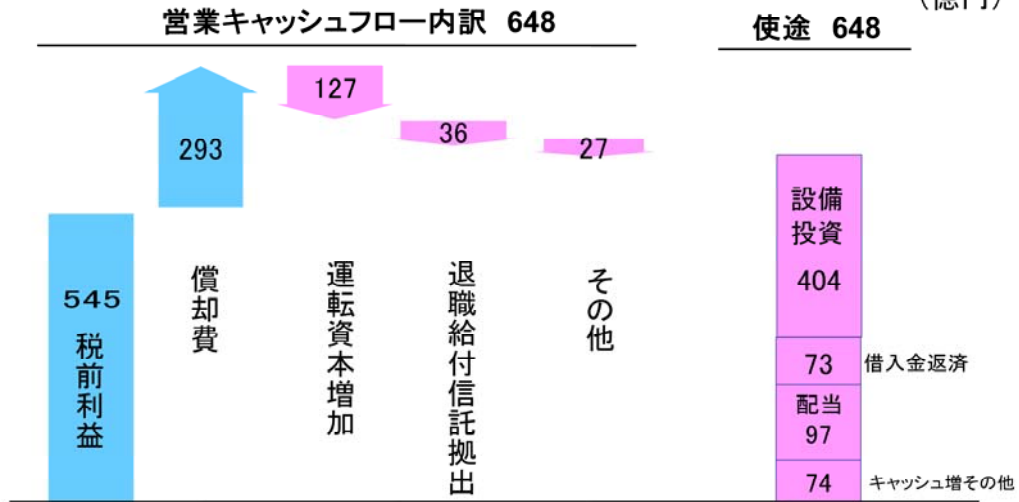
業績予想に対する進捗状況です。

営業利益の進捗率は69%と若干遅れていますが、第4四半期に向けてホスピタル事業ではスマートポンプを中心としたME関連製品の拡販、心臓血管領域事業では新製品を含んだカテーテル製品群の売上拡大を進めるとともに、原価を含めた費用管理を徹底することにより、営業利益の拡大を図っていきます。

営業キャッシュフロー

成長投資・借入金返済・株主還元をバランスよく実施

(億円)



2014/2/4

©Terumo Corporation

10/26

営業キャッシュフローは、ほぼ当初の見通し通りで推移しています。成長投資、借入金返済、配当をバランスよく実施する基本方針に変更はございません。

下期パイプライン製品のローンチ状況

ローンチ済み製品

領域	製品	地域
心臓	新PTCAバルーン	日
血液システム	統合データ管理システム (TACSI対応)	欧
輸液システム	閉鎖式輸液ライン	日
	スマートポンプ	亜

ローンチ済み製品



PTCAバルーン (Hiryu Plus)



統合データ管理 (TOMEs)



閉鎖式輸液ライン (シュアプラグAD)



スマートポンプ (テルフュージョン)

Q4ローンチ予定の製品

ペリフェラル	バルーン(膝下)	欧
	ステント(膝下)	欧
脳	コイルアシスト・ステント	中国
心臓	TRI用細物シース	日
血液システム	成分採血装置 (血漿採血対応)	日



2014/2/4

©Terumo Corporation

11/26

中期計画で提示したパイプライン製品のローンチ状況を説明します。

この第3四半期では心臓血管領域事業で日本において新しいPTCAバルーンの「Hiryu Plus」を発売しました。また、血液システム事業では欧州で統合データ管理システム「TOMEs」をリリースしました。そして、ホスピタル事業では閉鎖式輸液ライン「シュアプラグAD」を国内の施設限定でローンチし、アジアにおいてはスマートポンプを発売しました。

第4四半期のローンチ予定としては、心臓血管領域事業において、ペリフェラルの膝下バルーンとステントを欧州で、ニューロのアシストステント「LVIS」を中国で、そしてアクセスのTRI用細物シース「Glidesheath Slender」を日本でローンチする予定です。また、血液システム事業では、成分採血装置「Trima」の血漿採血対応版を日本でローンチする予定です。

Ultimaster、欧州でCEマークを取得

- 生分解性ポリマー、片面コートで長期臨床成績を期待
 - 分解期間を9~12ヶ月(ノボリ)から3~4ヶ月に短縮
- コバルト合金による薄化、デザインの工夫で柔軟性向上
- 2016年度 グローバル150億円の売上げを見込む



2014/2/4

©Terumo Corporation

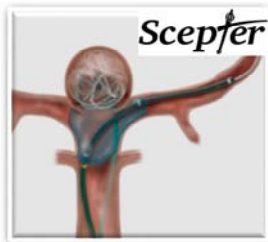
12/26

薬剤溶出型冠動脈ステント「Ultimaster」が欧州のCEマークを取得しました。欧州、中南米、アジア各地域において、6月より販売を開始します。2016年度にグローバルで150億円の売上を目指します。

Ultimasterは、ノボリと同様に、薬剤含有コーティングの材料に生分解性ポリマーを採用して血管組織に接する外側の面のみに塗布することで長期的なステント血栓症発生率の低減を目指した製品です。プラットフォームのコバルト合金採用とステントデザインの工夫で、蛇行した血管内の通過性を向上させるとともに、曲がった血管にも留置しやすくしました。この改良により、血管への負荷を下げ、予後の改善を目指します。

ニューロ新製品の販売好調、更に拡大へ

- Q3累計
- バルーン (Scepter) : \$10M、世界シェア 30% (推定)
 - アシストステント (LVIS) : \$ 5M
 - 血流改変ステント (FRED) : \$ 5M
- } 地域拡販に向け
} 治験も着実に進捗
- 2016年度 グローバル80億円の売上げを見込む



グローバルでローンチ済み

ローンチ予定

中: 申請済み FY13 Q4
米: HDE臨床済み FY14
日: フォローアップ完了 FY15

ローンチ予定

米: PMA治験中 FY16



2014/2/4

©Terumo Corporation

13/26

ニューロ分野の新製品が好調に売上を拡大しています。

まず、上期に日本でもローンチしたオクリューションバルーンの「Scepter」ですが、第3四半期までの売上実績はグローバルで1千万ドル、世界シェアは推定で30%まで拡大しました。また、昨年度にローンチしたアシストステントの「LVIS」と、今上期に欧州で販売を開始した血流改変ステントの「FRED」は、第3四半期までの売上実績が、それぞれ5百万ドルまでに拡大するとともに、地域拡販に向けた治験も順調に進捗しています。中計最終年度の2016年度には、これらの3製品で80億円程度の売上規模を見込んでいます。

為替前提を変更、通期業績予想は変更なし

年間想定レート 米ドル 100円 (Q4想定102円)
 ユーロ 134円 (" 139円)
 (億円)

	14/3期 予想	対前年 増減率
売上高	4,600	+14%
営業利益	700 (15.2%)	+32%
(のれん等償却除く)	850 (18.5%)	+27%
経常利益	675	+31%
純利益	420	-11%



2014/2/4

©Terumo Corporation

14/26

今期の業績予想についてですが、第4四半期の想定平均為替レートを米ドル102円、ユーロ139円とし、年間想定レートを米ドル100円、ユーロ134円に変更します。ただし、通期の業績予想に変更はございません。

株式分割

■ 2月4日の取締役会において株式分割を決定

■ 投資家の利便性と株式の流動性の向上を目的

- 分割方法 普通株式1株につき、2株の割合をもって分割
- 基準日公告日 2014年 2月 5日(水曜日)
- 基準日 2014年 3月31日(月曜日)
- 効力発生日 2014年 4月 1日(火曜日)



2014/2/4

©Terumo Corporation

15/26

このスライドが最後のスライドになります。

本日2月4日の取締役会において株式の分割を決定しました。投資単位当たりの金額を引き下げて、投資家の利便性並びに株式の流動性の向上を図ることを目的としています。これはまた、売買単位を50万円以下にするという東証の要請にも答えることとなります。

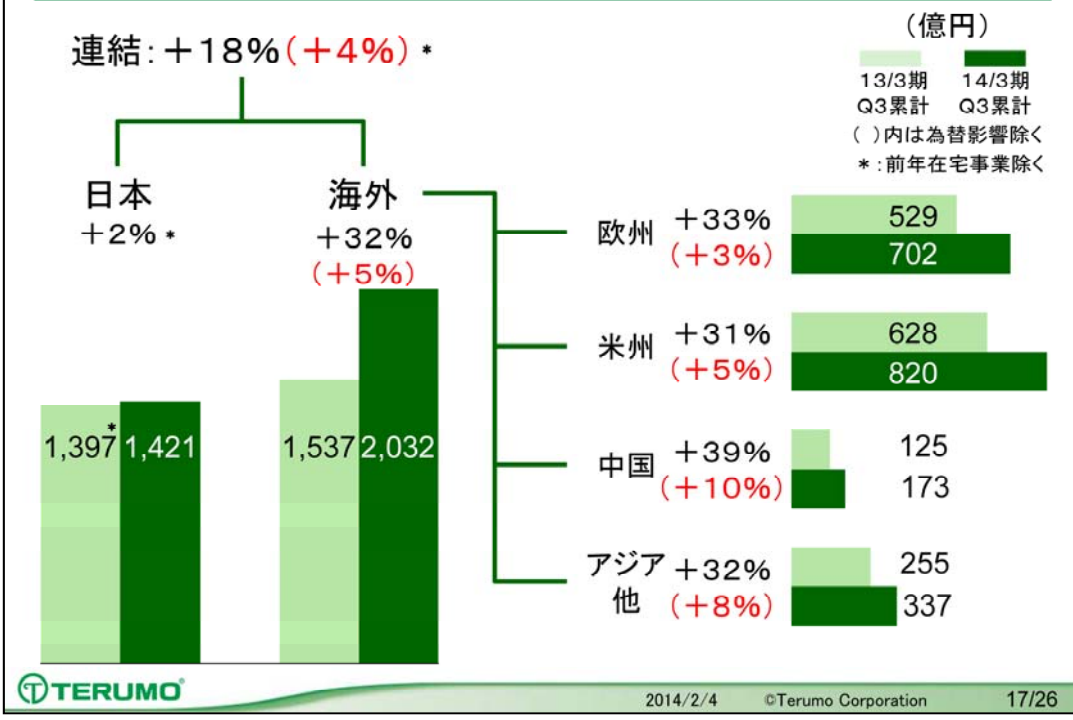
分割方法は普通株式1株につき2株の割合での分割とし、基準日は2014年3月31日、効力発生日は2014年4月1日となります。

以上で、2014年3月期 第3四半期の決算概要の説明を終了致します。

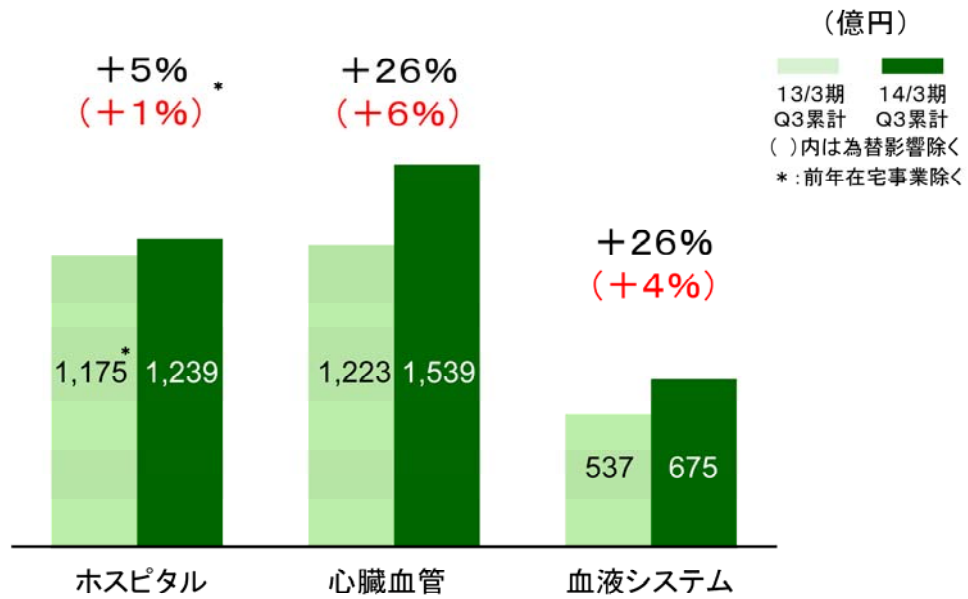
ご清聴ありがとうございました。

参考資料

売上高 地域別



売上高 事業セグメント別



事業別 地域別売上高と伸長率 (Q3のみ)

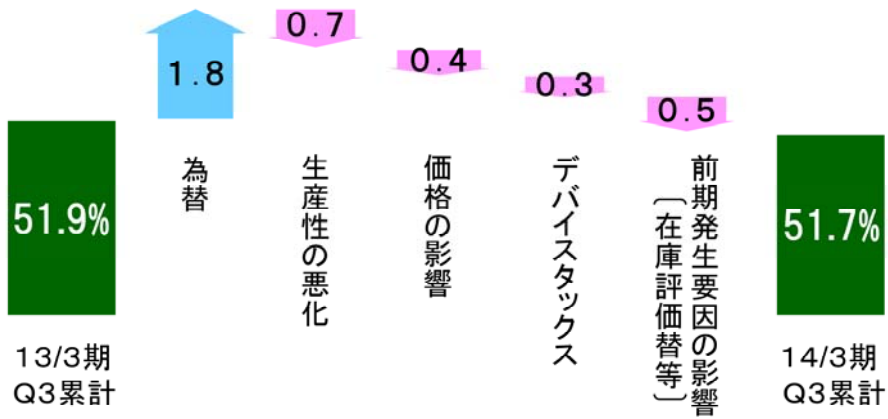
(億円)

事業 セグメント	日本	海外 計	欧州	米州	中国	アジア	合計
ホスピタル	329 (-5%)	98 (8%)	31 (6%)	22 (-2%)	3 (-8%)	42 (16%)	427 (-3%)
心臓血管	126 (8%)	405 (7%)	150 (4%)	162 (8%)	49 (13%)	44 (3%)	531 (7%)
うちカテーテル	96 (11%)	306 (10%)	121 (9%)	104 (12%)	47 (13%)	34 (5%)	401 (11%)
血液 システム	34 (-2%)	200 (1%)	65 (-1%)	94 (3%)	9 (-8%)	32 (0%)	234 (0%)
合計	489 (-2%)	703 (5%)	246 (3%)	278 (5%)	61 (8%)	117 (7%)	1,192 (2%)

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率及び前年在宅事業を除く

粗利益率差異分析

(%)



(参考) 上期実績

52.4% +2.2 -1.1 -0.5 -0.3 -0.9 51.8%

販管費

(億円)

	13/3期 Q3累計	14/3期 Q3累計	増減	増減率
人件費	388	472	+84	+22%
販促費	90	106	+16	+19%
物流費	76	81	+5	+6%
償却費	132	167	+35	+26%
その他	229	254	+25	+11%
一般管理費計	915 (31.0%)	1,080 (31.2%)	+165	+18%
研究開発費	194 (6.5%)	224 (6.5%)	+30	+16%
販管費合計	1,109 (37.5%)	1,304 (37.7%)	+195	+18%

()内は対売上高%

粗利益率、販管費率、営業利益率

(%)

粗利益率



販管費率



営業利益率



Q3 13/3期 Q4 Q1 Q2 Q3 14/3期

(各四半期の3ヶ月単位)

設備投資と研究開発費

(億円)

	14/3期 見通し	14/3期 Q3累計実績
設備投資	450→500 [*]	404(81%)
償却費	370	293(79%)
研究開発費	300	224(75%)

* 山口投資来期分50億円を前倒し

%: 対年間見通し割合

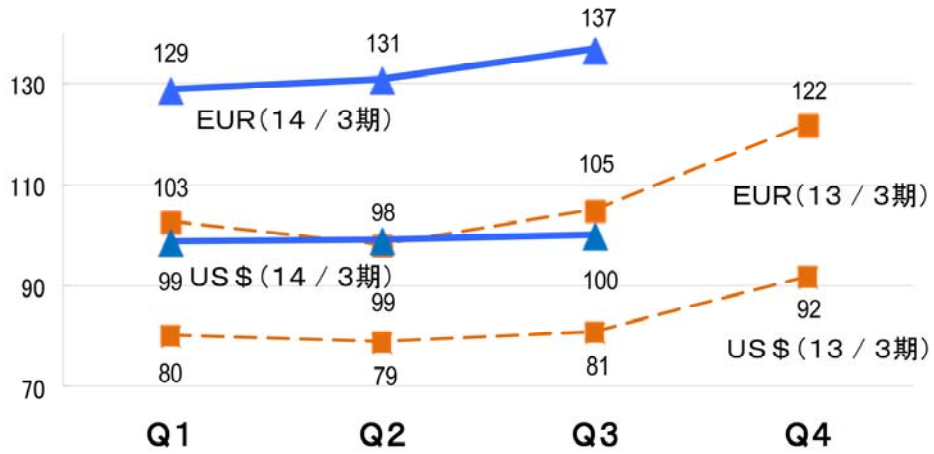
のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

為替感応度

(億円/年)

	ドル	ユーロ
売上高	18	7
営業利益	3	4

四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。